

2014年度 研究室活動記録

オープンラボ記録

本年度のオープンラボは昨年度に引き続き、1日2回開催とし、大学院生による研究室紹介と個別相談を行った。

<実施概要>

- ◆ 日時：2014年6月4日（水）
15:00～16:30, 18:30～20:00

<コース紹介>第一部（15:00～16:30）

相良好美（社会教育学研究室）
高浪雅洋（図書館情報学研究室）

<コース紹介>第二部（18:30～20:00）

中川友理絵（社会教育学研究室）
矢田竣太郎（図書館情報学研究室）

ワNDERセミナー記録

本年度も図書館情報学研究室と社会教育学研究室の研究交流を目的として、両研究室の博論生とOBが研究内容を発表した。

<実施概要>

- ◆ 日時：2014年9月4日（木）
10:00～15:00
- ◆ 会場：教育学研究科・教育学部棟 156 教室
- ◆ 発表者：大山宏，崔英姫，園部友里恵，浅石卓真，荻野亮吾，松田ユリ子

2014年度 講義内容一覧

【生涯学習論基本研究Ⅰ】【生涯学習論特殊研究Ⅰ】担当：教授・牧野篤，准教授・李正連，講師・新藤浩伸

前期のゼミでは、日本社会教育の近代について比較・歴史的に考えるというテーマのもと次の3冊を講読した。(1) 新海英行『現代ドイツ民衆教育史研究—ヴァイマル期民衆大学の成立と展開』日本図書センター，2004 (2) 松田武雄『近代日本社会教育の成立』九州大学出版

会，2004 (3) 李正連『韓国社会教育の起源と展開—大韓帝国末期から植民地時代までを中心に』大学教育出版，2008。また，松田武雄氏に特別 授業をしていただき，独自の分析視点を獲得するに至った背景等のお話を伺った。前期を通じて受講者は，当時の通俗教育・社会教育の概念を読み解く上で用語を的確に理解・共有することが前提であり，それをふまえて各々の著者の研究方法や社会教育概念の特徴を議論することを目指した。また，文献購読と並行して，プロジェクト研究としてNPO 法人街ing 本郷と岡さんのいえ TOMO のいずれかのフィールドに分かれて，継続的な活動を行うことになった。

【生涯学習論基本研究Ⅱ】【生涯学習論特殊研究Ⅱ】担当：教授・牧野篤，准教授・李正連，講師・新藤浩伸

冬学期ゼミでは，牧野篤著『生きることとしての学び—2010 年代・自生する地域コミュニティと共変化する人々』(2014) /松田武雄著『コミュニティ・ガバナンスと社会教育の再定義—社会教育福祉の可能性』(2014) /佐藤智子著『学習するコミュニティのガバナンス』(2014) /新藤浩伸著『公会堂と民衆の近代 歴史が演出された舞台空間』を講読し，社会教育・生涯学習の現代的課題や地域社会との関わり方，特定の場所に集う民衆のとらえ方等について議論が行われた。講読した文献の著者の多くが本研究室に関係のある人であったこともあり，文献に対する疑問点を直接著者に尋ねる機会も多く，全体的に実りある議論となった。また，ゼミの一環として文部科学省主催のワークショップへの参加や，韓国の平生教育に関する特別講義等がおこなわれ，社会教育・生涯学習の実践的課題について多角的に検討する機会が多数設けられた。

【生涯学習論論文指導】担当：教授・牧野篤，准教授・李正連，講師・新藤浩伸

本ゼミは，研究室所属の大学院生が各自の研究の進捗状況を報告し議論する場として毎週1回開かれ，夏学期・冬学期ともに各1回以上の発表の機会が設けられている。学位論文執筆，学会発表，各種紀要への投稿を念頭においた発表，検討が行われた。発表者は毎回資料を予め

メーリングリストに配布し、各自それを検討した上でコメントをする形式をとっている。「社会教育・生涯学習」ゼミの特殊性から非常に多様なテーマが取り上げられたが、具体的には（１）高齢者、若者、子どもの学びと活動、生き方に関する研究、（２）地域文化の継承活動の実践に関する研究、（３）労働、教育福祉、Socialpedagogikに関する概念と意義考察、（４）公共ホール、博物館などの施設で行われる実践に関する研究、（５）趣味など、人間の心を支える活動や関係性をめぐる研究、などであった。多岐にわたるテーマのもとに新たな気づきと示唆を与えてくれるような議論が行われる中で、研究の進め方や研究の意義、研究の方向性などを確認することができた。

【社会教育学特殊研究】担当：非常勤講師・矢口悦子

本ゼミでは、「共同学習の再検討—日英の理論と実践を中心に—」をテーマに、以下の文献を購読し、各自考えたことを議論した。①伊藤雅子『子どもからの自立：おとなの女が学ぶということ』未来社、1975年（「新版」あり）、②国立女性教育会館女性アーカイブセンター所蔵資料「稲取婦人学級資料」、③「私たちの公民館保育室」国立市公民館保育室運営会議編『子どもをあずける』未来社、1979年、④伊藤雅子「主婦の学ぶ権利と公民館保育室」『月刊社会教育』1974年5月号、⑤矢口悦子「補遺 イギリス労働者教育協会（WEA）における女性の学習」ゾエ・マンビー編『イギリス労働者教育協会（WEA）の女性たち』矢口悦子訳、新水社、2009年、⑥“7. Working in groups” Yvonne Hillier. *Reflective Teaching in Further and Adult Education*. 議論の際には、矢口先生の進行のもと、一人ひとりの発言を掘り下げる形で活発に議論が進み、共同学習の日英理論と実践を知識として学ぶだけではなく、それぞれの考え方を互いに深めていく実りのある時間となった。

【プログラム評価論】担当：非常勤講師・安田節之

本ゼミは、様々な実践活動をプログラムとして客観的に捉え、その結果や効果を評価し、活動の質向上につなげるための方法論を身につ

けるという目的のもと開講された。講義の前半ではテキスト『プログラム評価：対人・コミュニティの援助の質を高めるために（ワードマップ）』（安田節之、新曜社、2011年）を使用し、プログラム評価の目的やプログラムを客観化・可視化する手順を先生に解説していただくとともに、内容の疑問点を出し合い活発な議論が行われた。さらに、それらを実際に受講者各々が関わる実践に適用した。特に受講者の専攻が多様だったこともあり、様々な視点から活発な議論がなされた。最終的には、プログラム評価の手順にしたがってテクニカルレポートを作成した。プログラム評価の技法は、説明責任の必要性のみならず、実践に対する科学的知見の活用、またフィールドでのコンサルテーションの視点からも重要であろう。

【図書館情報学研究方法論】担当：教授・影浦峯

本ゼミでは、各受講生がそれぞれの関心に応じて投稿論文を執筆することを目的に掲げ、学術研究を行うために必要とされる基本的な手順とスキルを、具体的な行為のレベルまでを含めて学んだ。毎週進捗に合わせて課される課題を紹介し、それを参照しながら受講生間で検討をする形式で行った。検討を行った主な内容は、(1)発表資料の作成方法、(2)口頭での発表の仕方、(3)スケジューリング、(4)各受講生の研究の方法論、(5)先行研究の読み方、(6)章立てである。これらの検討を行う中で、学術的な議論を建設的にするために従うべき形式・作法についても影浦教授の指摘を得ながら学んだ。

【文化的多様性と図書館サービス】：担当：非常勤講師・吉田右子

本ゼミでは、利用者の人種、民族、ジェンダー、性的志向、年齢といった多様な文化的背景に考慮した先進的な実践活動を展開している公共図書館に焦点を当て、サービスの理念と実践を概観しながら、マイノリティ集団を対象とした図書館サービスの現状、課題、可能性を議論した。北欧の公共図書館を扱った回では、デンマークの公共図書館による難民への支援を研究している和気尚美さんにお越しいただいてお話を伺った。ゼミの終盤では、受講生によって「State Library of New South Wales」等

の図書館で行われるサービスや米国図書館協会 (ALA) の「Challenged Books」等に挙げられたマイノリティを扱った本について発表が行われ、議論がかわされた。

【図書館情報学理論研究】担当：非常勤講師・吉田右子

本ゼミでは、テキスト『図書館倫理 サービス・アクセス・関心の対立・秘密性』（ジーン・L・プリアー著 川崎良孝・久野和子・桑原千幸・福井祐介訳 京都図書館情報学研究会発行 日本図書館協会発売 2011）に従って、参加院生が章ごとに要約・紹介する形で進められた。最初にアメリカの図書館情報専門職の歴史と図書館倫理に関わるアメリカのさまざまな倫理綱領、声明等を学ぶことから始まり、「2章 サービス：提供者」「3章 サービス：対象者」「4章 アクセス：情報」「5章 アクセス：形態」「7章 関心の対立：金銭」「8章 秘密性」「9章 将来」を院生が担当、そのつど質問・議論等を行った。参加院生は一人が2つの章を担当、ゼミの終盤では本のなかに取められた実例を各自一つ選び、実例で紹介された英文文献を読んで報告、検討した。アメリカの図書館事情について理解を深めるとともに、日本の図書館のあり方について考察した。

【ウェブ情報処理】担当：非常勤講師・藤井敦

講義と実習を通して、ウェブ情報処理における「情報検索」の理論と技術を習得した。講義パートでは、情報検索の基本事項（定義、構成要素、情報要求との関係）の確認から始まり、形態素解析、索引語重み付け、検索アルゴリズム、フィードバックなどについてオーソドックスな理論・手法を具体例とともに概観した。実習パートでは、講義内容を踏まえて、実際に簡易的な情報検索システムを実装した。プログラミング言語 Perl を使い、索引語抽出、接辞処理、不要語削除、索引語重み付け (TF-IDF 法)、文書スコア計算といった機能を組み込み、XML 形式のテキストファイルと検索クエリを処理した。実際に手を動かし検索システムを作ることで、講義内容の理解が一層深まった。また本ゼミで学んだ理論・技術は、情報検索のみならず、分類・テキストマイニング等、他の様々な

研究分野にも応用できるだろう。

【情報媒体構造論】担当：教授・影浦峽

2014 年度冬学期開講、影浦教授の授業としては初の試みとして、教育学部開講の「情報組織論演習」と合併して行われた。したがって授業内容としては司書科目の「情報資源組織論演習」に属する図書館の分類法などを扱うが、そもそも人間の営為としての「分類」について考察を深めるかたちで設計されている。曰く「凡そ考えることそのものを可能にする<それ>の側に属する分類法と、考えられることを前提としてある対象を理解するために用いられる分類法」について、それぞれに注意を払う。教材は主に図書館が用いる分類法の英語教科書で、適宜日本語の資料が配布される。影浦教授による導入の解説と、その後の文献購読および受講者への質問で授業は進行し、折に触れ小テストが実施される。出席者は30名程度で、院生が2割程度、残りは学部生である。

【図書館情報学総合研究】担当：教授・影浦峽

【図書館情報学論文指導】担当：教授・根本彰、教授・影浦峽

大学院生は年間を通して指導教員のもとで各自の研究を進めながら、通称「総合ゼミ」と呼ばれる進捗状況を報告し議論するゼミに参加する。総合ゼミは毎月1～2回開かれ、夏学期・冬学期ともに各学生1回以上の発表の機会が設けられている。修士課程1年生は、卒業研究の内容報告や修士論文のテーマ決めを行う。修士課程2年生は、修士論文の進捗報告が中心である。博士課程は、博士論文の進捗報告に加えて、学会発表の予行練習や投稿論文の検討を行う。本ゼミの特徴は、内容面での議論のみならず、発表形式や配布資料の構成と体裁、スケジュールの立て方など研究遂行に関わる多面的な議論・アドバイスがなされる点である。本年度の発表テーマは、計量情報学、学校図書館、図書推薦、情報探索行動、百科事典、機械翻訳など多岐にわたっていた。また9月及び2月(予定)には、筑波大学吉田右子教授の研究室との合同ゼミを開催し、両研究室から数名ずつ研究内容を発表する中で、活発な議論及び交流を行った。

2014年度 個人研究活動報告

(図書館情報学研究室 特任研究員)

[浅石卓真]

本年度から特任研究員に着任しました。主な活動としては、科学研究費補助金(基盤研究(A))「図書館情報学教育を高度化するための研究基盤形成」の下、2010年度～2013年度に実施された図書館情報学検定試験の報告書を取りまとめ、その一部は第62回日本図書館情報学会研究大会で発表しました。個人研究では、科学研究費補助金(研究活動スタート支援)「教科書における知識の展開過程を反映したテキストの計量言語学的分析」の助成を受け、教科書を読み進めていく過程に対応したテキストの時系列的な特徴を分析しています。この成果を含めた博士論文は現在第2稿を執筆中です。その他「学校図書館における計量書誌学的データとその活用可能性」という論文が『情報の科学と技術』に掲載されたほか、学校図書館関連の共同研究が『生涯学習基盤経営研究』に掲載されました。教育活動としては、相模女子大学、十文字学園女子大学、東洋英和女学院大学でそれぞれ「図書館情報技術論」「学校経営と学校図書館」「情報サービス演習」の科目の非常勤講師を務めました。

(図書館情報学研究室 博士課程)

[松田ユリ子]

今年も引き続き、「場所としての学校図書館」をテーマとする博士論文のための研究を行いました。9月にコースのワンデーセミナーで発表を行い、多くの貴重なコメントをいただきました。関連して、昨年度のコース紀要に掲載された共著論文「高校生の潜在的ニーズを顕在化させる学校図書館での交流相談-普通科課題集中校における実践的フィールドワーク-」を元に、8月リヨンで開かれたIFLAにおいてポスター発表を行いました。また、今年度の教育学研究科紀要に筆頭共著論文「学力下位校における『探究学習』の事例的研究:学習意欲に着目して」が掲載予定です。その他、共著書『学生のレポート・論文トレーニングスキルを学ぶ21のワーク』の改訂版を実教出版から上梓しました。

[崔英姫]

戦後日本の中等教育における探究学習の展開に

ついて、教授・学習方法の理論および実践の変遷に着目し、博士課程の研究をすすめている。本年度は、戦後日本の中等教育史において探究学習が初めて強調されたと知られている昭和40年代の学習指導要領と教育的実践を中心に、研究を行ってきた。この研究成果の一部は、「日本の中等教育における探究学習の展開-1960年代後半～1970年代にかけての教育的実践を中心に-」として、2014年度6月日本カリキュラム学会で発表した。また、これをベースにして、次の3点に焦点を当て、投稿論文を執筆している。1つ目に、日本で初めて「探究学習」の実践研究が行われた1964年以来の藤枝市立西益津中学校における探究学習の実践研究と、2つ目に、シュワブの探究学習論の受容以来、1960年代末から理科を中心に進められた実践的模索、3つ目に、1970年代からの社会科探究学習実践の新たな展開である。

[井田浩之]

本年度の活動は大別して二つある。一つは、東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センターの研究プロジェクトで、「21世紀型スキル」をめぐる理論と実践に関する研究-協調学習を実践する教師の振り返りから-を発表した。協調学習という新しい学習方法が教育の現場にどのように受容されていくのか。各種資質能力の検討と教師の語りを分析した。もう一つは、個人研究として、「大学生を対象とした情報リテラシー教育」の理論化を行うべく、依拠できる理論的枠組みの検討を継続している。現在のところ文化研究、社会理論の結節点に、それを位置付ける萌芽が見えつつある。テクノロジーの進展によるテキストの性質、学習者(読者)・テキストの著者の位置付け、学習者によりアウトプットされる成果。さらには構築される学問の世界はどうなるのか。以上を視野において、博士論文執筆資格審査に向けたペーパーを2015年夏に提出予定である。

[高橋恵美子]

本年度は博士論文執筆のための研究活動が中心となった。修士論文で扱いきれなかった小中学校司書の実践やブックトークなどの実践に関する文献調査を中心に行った。高校に比べて小中学校の学校司書は制度化の遅れもあり、実践が出てくるのは1990年代半ばに入ってからである。また学校司書配置が実現するのは各地の市民・住民による

学校図書館充実運動によるもので、その点に特徴がある。小中学校司書は、高校と比べると非正規職員の割合が多く有資格者の割合も低い、そうした悪条件の中、特に小学校において学校司書の役割認知を広めてきている。また全国 SLA 機関誌『学校図書館』に掲載されている図書館実践の記事から、実践内容と職員制度との関連を明らかにすべく、2003年4月以降の司書教諭・教諭・学校司書の実践の分析に着手した。さらに根本先生ご退官記念出版司書教諭課程班の一員として、司書教諭養成関係資料及び年表作成作業を行った。

〔宮田玲〕

今年度は博士課程に進学し、昨年度に引き続き、自治体文書を対象とした機械翻訳の研究を進めました。成果の一部は2014年3月の言語処理学会第20回年次大会にて報告しました。また昨年度執筆した修士論文が、6月にアジア太平洋機械翻訳協会の第1回 AAMT 長尾賞学生奨励賞に選ばれ、AAMT Journal に「自治体文書の多言語化を支援する枠組みとシステム環境の研究」という題目で論文を寄稿しました。10～12月には、オーストラリア連邦科学産業研究機構・上級主任研究員の Cécile Paris 氏を招聘し、博士研究に関連したテーマで共同研究を進め、その成果は12月に開催されたミニセミナーにて発表しました。ドイツ・チュービンゲン大学と進めている共同研究では、3月に開催された国際会議 APCLC2014 にて、“The Use of Corpus Evidence and Human Introspection to Create Idiom Variations”という題目で発表しました。また今年度より、学校図書館による教員への図書推薦を支援するシステムに関する共同研究を開始しました。

〔図書館情報学研究室 修士課程〕

〔松田めぐみ〕

本年度は、修士論文「司書教諭と学校司書による教員への支援の実態—実践報告にあらわれる支援内容の分析—」を執筆しました。修士論文では、今後の司書教諭や学校司書の資格や養成を検討するための材料とするために、政府の方針や先行研究が示す支援内容をまとめた上で、政府の方針や先行研究において示されていない先進的な支援内容を明らかにしました。先進的な支援内容を明らかにするために、実践報告が掲載された代表的な雑誌2誌の記事を対象に文献調査を行いました。

さらにインタビュー調査によって雑誌2誌の編集方針を明らかにし、2誌がどのような集団を代表しているかをより詳しく示しました。次年度からは、修士論文をはじめとする大学院での研究を学校現場で活かしていきたいと考えています。

〔矢田 竣太郎〕

2014年度より本コース修士課程に進学し、図書館情報学研究室に配属たまわった。卒業論文から継続・延長したテーマである『オンラインを介して「前読書家」の読書を触発する方式・環境の開発』を修士論文で取り組む。4月に日本図書館情報学会研究集会、11月に International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries で当該研究の進捗を発表（それぞれ口頭発表、ポスター発表）した。特に後者の学会準備にあつては当研究室に10月より招致（博士課程の宮田玲氏による）された Cecile Paris 先生に多くの助言をいただき、Paris 先生の研究交流に同伴して NII や IBM へ伺って有意義な研究上の示唆を得た。また夏から NII の阿辺川武氏の指導を受けつつ Webcat Plus にまつわる研究補助作業をさせていただいているほか、学校図書館職員向け支援システムに関する研究（宮田氏、浅石卓真特任研究員と共同）にも参加している。

〔高浪雅洋〕

本年度は、学部での卒業研究（『公共図書館におけるまちづくりの実践』）を振り返るとともに、学術研究を行うにあたり身につけておくべきと考えられる知識や技能について検討し、知識や技能を用いて考えるということを中心に取り組みました。前期は、人文科学・社会科学・図書館情報学分野における、理論的な枠組みや研究方法論、論文執筆法について学びました。後期は、図書館の理念と歴史という観点から、図書館情報専門職および図書館サービス・情報アクセスに関する文化的な特質等について学びました。また、根本彰先生著『図書館情報専門職の教育の形成過程（仮題）』内の司書・司書補講習および司書教諭講習の実績データと、司書養成および司書養成テキストの分析における一部の執筆を担当し、3月にミネルヴァ書房より刊行となりました。今後は、修士論文執筆に向けて引き続き基本文献の収集を行い、リサーチ・クエスチョンを設定するとともに、具体的な研究手法について検討していきたいと考えてい

ます。

〔山田翔平〕

本年度より図書館情報学研究室の修士課程に入学しました。百科事典とその電子化に関心を持ち、具体的な修士論文のテーマを定めるために、関連する文献を読むことに力を入れました。また、自分の研究を進めること以外に、図書館情報学分野の研究者として基本的な知識・技術を身につけるため、以下の2つのことにも取り組みました。

(1) 図書メディアの形態・様式についての実証的研究：東洋大学の戸田先生らとの共同研究で、戦後のベストセラー図書の文字記号の配置の経年的変化を実証的に示す研究を行い、日本図書館情報学会において発表を行いました。

(2) 勉強会・読書会への参加：今後の研究の手段として身につけておくべき、機械学習とプログラミングの勉強会に参加しました。読書会ではフォーコの『言葉と物』を扱い、知識を扱う研究を行うための素地を鍛えました。

(社会教育学・生涯学習論研究室 特任助教)

〔古壕典洋〕

・「ネクスファワークショップ実施報告」の執筆と編集

・「高柳キッズセミナー2014 実施報告」の執筆と編集

・「ものラボワークショップ in 高山2014 実施報告」

・『当事者になり続けるということ—内灘町公民館調査報告 2』(学習基盤社会研究・調査モノグラフ 6)の執筆と編集

・『ものづくりを通じた新しいコミュニティのデザイン—MONO-LAB-JAPAN の活動を中心に』(学習基盤社会研究・調査モノグラフ 7)の執筆

(社会教育学・生涯学習論研究室 博士課程)

〔豊田香〕

2014年1月から12月までの研究活動は、以下の通りです。

1. 論文 (投稿中)

「職業的アイデンティティの危機解決とそのプロセス—専門職大学院ビジネススクールの事例から」(投稿・修正中：発達心理学研究)

「キャリア自律におけるキャリア開発行動が職業的自己概念を発現させる準拠枠に与える影響—専門職大学院ビジネススクールの入学生群・修了生

群・修了社会人群の自尊感情に着目して」(投稿中：人材育成研究)

2. 学会発表

・日本パーソナリティ心理学会第23回大会：山梨大学(単)登壇者『ビジネス研修におけるTEA図を用いたキャリアデザイン—開放型時間的展望学習の開発と実践』

・日本質的心理学会第11回大会：松山大学(単)登壇者『専門職大学院ビジネススクールの学びにより変容する経営実践—職業的アイデンティティの変容を可視化する試み』

・人材育成学会第12回年次大会：明治大学(単)登壇者『専門職大学院ビジネススクールにおけるキャリア開発行動がもたらす職業的自己概念を発現させる準拠枠の変容—入学生群・修了生群・修了社会人群の自尊感情に着目して』

3. 実践活動

・東海大学非常勤講師として、「異文化コミュニケーション」科目を担当。大学3,4年生を対象に、成人学習理論に基づく異文化教育・対人関係構築のためのアサーション訓練などを実践している。

・ビジネスマン対象に、TEA理論を枠組みとした、成人学習理論に基づくキャリアデザインセミナーを3月と9月に実施。キャリアを振り返り、未来展望を得る時間的展望学習のプログラム開発を実践検証している。

〔中村由香〕

本年度行った研究は、以下の通りです。

【論文】「育児期女性の社会的ネットワークの現状と規定要因：KJ法による先行研究の整理を通じて」『生涯学習基盤経営研究』第39号、2015年3月発行予定。

【報告書】「調査方法について」「向栗崎地区でのワークショップ」(家保咲希・大山宏・金宝藍・古壕典洋・三山雄大と共著)東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室 内灘町社会教育調査チーム『当事者になり続けるということ：内灘町公民館調査報告 2 (学習基盤社会研究・調査モノグラフ 第6号)』2014年11月, pp. 8-9, pp. 71-92。

【学術雑誌における解説・総説】「公民館研究の動向」(中川友理絵・西川昇吾・松尾有美・荻野亮吾と共著)『日本公民館学会年報』第11号、2014年12月, pp. 173-178。

【学会発表】「女性の学習における社会的ネットワ

ークの位置づけに関する検討」日本社会教育学会第61回大会、2014年9月。

【学会発表】「住民の社会参加と地域活動に関する調査研究：長野県飯田市千代地区・東野地区を対象とした『地域社会への参加に関するアンケート調査』の分析」（牧野篤・李正連・新藤浩伸・荻野亮吾・侯婷婷・大山宏・中川友理絵・相良好美・西川昇吾・松田弥花・松尾有美と共同）日本公民館学会第13回研究大会、2014年12月。

〔侯婷婷〕

本年度は、主に以下の研究活動を行った。

「個人研究」

今年から、「農民工子女教育」に関連する多分野の知識を網羅的に勉強し、問題関心を絞り出すことに力を入れた。また、上海市の民営農民工子女学校をめぐる施策の実態に着目し、近年の変容や問題点を分析するものとして、論文「中国における民営農民工子女学校に関する政策の展開と実施—上海市の事例を中心に—」を執筆した。それから、人権教育関連の一般書『グローバル社会と人権問題—人権保障と共生社会の構築に向けて』を分担執筆した。

「共同研究」

飯田調査に参加し、二つの地域の住民を対象とするアンケート調査のデータ分析に関わった。分析結果は、日本公民館学会第13回研究大会で報告された。また、研究室のプロジェクト「岡さんのいえ」では、研究室主催のイベントをはじめ、多種多様な地域活動に参加した。地域の人々と交流することで、自らの問題関心が広がったように感じている。

〔園部友里恵〕

1. 論文等

・「高齢者の演劇活動の展開：活動のねらいに着目した新聞記事の分析から」（『演劇学論集：日本演劇学会紀要』60、2015（査読有、最終校正中））

・「聞き書きが紡ぐ「ことば」のアーカイブ」（世田谷パブリックシアター編『CarroMag.』4、2015（印刷中））

・「被災地としての大槌町、大槌町としての大槌町」（東京大学教育学部社会教育学研究室大槌町訪問チーム『わたしの大槌物語：東大生が紡ぐおばあちゃんの物語』2014、p.12-58）

2. 学会発表

・「インプロを活用した高齢者の学習に関する一考察」日本教育工学会研究会2014年度⑤

・「公共劇場が「聞き書き」をおこなう意義：世田谷パブリックシアター「世田谷のこえ アーカイブプロジェクト」を事例として」日本演劇学会2014年度秋の研究集会

・「高齢者の演劇活動の展開：高齢者の身体に着目して」日本社会教育学会第61回研究大会

・「高齢者の学習と身体に関する一考察：〈老い衰えゆく〉人々の活動から」日本教育学会第73回大会

・ Yurie SONOBE, Hiroyuki FUKUDA, “Is Improvisational Theatre Really Improvised? : The Inherent Structure in Improvised Performances” XVIII ISA WORLD CONGRESS OF SOCIOLOGY（査読有）

〔中川友理絵〕

2014年度の研究活動は以下の通りです。

・学会活動（共同）

「ESDと社会教育を巡る論点の整理」日本社会教育学会6月集会ラウンドテーブル、2014年6月、神奈川大学

「社会教育におけるESD研究の可能性」日本社会教育学会第61回研究大会ラウンドテーブル、2014年9月、福井大学

「住民の社会参加と地域活動に関する調査研究—長野県飯田市千代地区・東野地区を対象とした「地域社会への参加に関するアンケート調査」の分析—」日本公民館学会第13回研究大会、2014年12月、木更津市立中央公民館

・報告書（共同）

「公民館研究の動向」『日本公民館学会年報』第11号、2014年11月、pp.173-178

「第11分科会山中湖情報創造館のあゆみと住民の学習」『第54回社会教育研究全国集会（山中湖集会）報告書』社会教育推進全国協議会、2014年11月、pp.56-58

・調査活動

個人研究として、北九州市立美術館、世田谷美術館におけるインタビュー調査。

共同研究として、世田谷区地域共生のいえ「岡さんのいえ TOMO」における餃子パーティーや映画カフェの企画、運営等。また、キッザニアにおける子どもの参与観察調査（報告書執筆中）。

〔金宝藍〕

本年度の研究・活動内容は以下の通りです。

1. 研究報告

- ①「地域コミュニティにおける『市民的リテラシー』形成過程に関する一考察」日本社会教育学会第61回研究大会(自由研究発表), 2014年9月27日.
- ②「社会と学びの再構成原理としてのESDを考えるー韓国の草の根運動の実践から」日本社会教育学会第61回研究大会(ラウンドテーブル), 2014年9月28日.
- ③『「持続可能な社会教育」の創造に向かう自己教育実践ーエネルギー自立マウル運動の事例を手掛かりに」第6回日韓学術交流研究大会(地域づくりと社会教育), 2014年11月30日.
- ④「マウル市民運動から生まれる『市民的リテラシー』の形成」, 現代韓国研究センター学術ワークショップ, 2014年12月20日.

2. 報告書

- ①東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室 内灘町社会教育調査チーム『当事者になり続けるということ(学習基盤社会研究・調査モノグラフ)』第6号, 2014年11月, pp. 56-59, pp. 67-69.
- ②呉世蓮, 金宝藍, 郭珍榮, 松尾有美「韓国の平生教育・この1年」『東アジア社会教育研究』19号, 2014年9月, pp. 74-88.

3. 活動

- ①研究室院生共同プロジェクトとして「街ing本郷・本郷百貨店」への参加
- ②ソウル市・蘆原区, 銅雀区を活動基盤としている地域の方々への聞き取り調査
- ③定例研究会への参加(「社会教育としてのESD」, 「韓国生涯学習フォーラム」)

〔大山宏〕

本年度行った研究活動は, 以下の通りである。

1. 研究ノート

- ・「小平市における青年集団の役割とその変遷ー戦中・戦後初期を中心として」『生涯学習基盤経営研究』第39号掲載予定

2. 報告書

- ・東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室 内灘町社会教育調査チーム『当事者になり続けるということー内灘町公民館調査報告 2ー』(学習基盤社会研究・調査モノグラフ第6号) 2014, pp. 12-15 (三山雄大と共

著), 35-38, 75-78, 93-98 (古塚典洋・牧野篤と共著), 126-129 (相良好美・家保咲希と共著)

- ・東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室 東京大学生涯学習論研究室 MONO-LAB-JAPAN プロジェクト『ものづくりを通じた新しいコミュニティのデザインー MONO-LAB-JAPAN の活動を中心にー』(学習基盤社会研究・調査モノグラフ第7号) 2014, pp. 211-214 (相良好美・家保咲希と共著)

3. 学会発表等

- ・「子ども・若者支援における業務と関連資格ーその要件・業務内容・養成方法ー」日本社会教育学会六月集会, 2014年6月
- ・「若者による居場所づくりの意義と課題」日本社会教育学会第61回大会, 2014年9月
- ・「[自立]の4側面の再構築と専門職養成・研修の論点整理 「自立」概念に関する先行研究の整理」日本社会教育学会プロジェクト研究「子ども・若者支援専門職の必要性和資質に関する研究」第3回定例研究会, 2014年11月(生田周二と共同発表)
- ・「住民の社会参加と地域活動に関する調査研究ー長野県飯田市千代地区・東野地区を対象とした「地域社会への参加に関するアンケート調査」の分析ー」日本公民館学会第13回研究大会, 2014年12月(牧野篤, 李正連, 新藤浩伸, 荻野亮吾, 俣婷婷, 中村由香, 中川友理絵, 相良好美, 西川昇吾, 松田弥花, 松尾有美と共同発表)

4. その他

昨年度から引き続き石川県内灘町の公民館調査に参加し, ワークショップを行った他, 長野県飯田市で行われた住民に対するアンケート調査にも関わり, 公民館の利用実態について分析を行った。飯田市の調査結果は日本公民館学会第13回研究大会にて報告している。また, 東京都世田谷区の「岡さんのいえ TOMO」に関わり, 地域住民や中高生を対象とした企画を数回行っている。この他, 昨年度から行っていた世田谷区における中高生支援事業の検証作業の結果は, 「中高生世代活動支援モデル事業検証報告書」としてまとめられ, 事業の運営主体であったNPO法人せたがやっこ参画推進パートナーズから公開されている。

〔山口香苗〕

- 2013年9月から台湾師範大学に留学中。
- ・山口香苗「台北市における学習を核とした都市

づくり：学習都市の形成に向けて』『東アジア社会教育研究』第19号、2014年、pp. 31-42。

・山口香苗「台湾の生涯学習この1年：終身学習法修正を中心に』『東アジア社会教育研究』第19号、2014年、pp. 139-149。

〔相良好美〕

本年度に行った研究活動は以下の通りです。

(報告書・分担執筆)『当事者になり続けるということー内灘町公民館調査報告2ー』(学習基盤社会研究・調査モノグラフ6)、2014年11月。『ものづくりを通じた新しいコミュニティのデザインーMONO-LAB-JAPANの活動を中心にー』(学習基盤社会研究・調査モノグラフ7)、2014年12月。

(学会発表・単独)「ニューカマー青年の時間的展望についての一考察」第61回日本社会教育学会研究大会、2014年9月。

(研究発表・共同)「現代社会を生きる青年たちの自己形成をめぐる発達課題及び有効な援助形態に関する探索的研究」(研究代表者：張愛子)東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所 第11回研究討論会、2014年12月。

(その他の研究活動)① 東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構『高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」』リサーチ・アシスタント(2014年7月～)② 日本社会教育学会 研究担当幹事(プロジェクト研究「社会教育研究における方法論の検討」担当、2013年12月～)

〔杉浦ちなみ〕

博士課程に進学しました。本年度も奄美大島のフィールドワークを続け、しまうたの伝承活動の調査を行いました。その一環として、①修士論文での研究を、日本社会教育学会研究大会(9月)で報告しました(題目：「奄美大島の集落行事としての八月踊りに見る表現・文化活動の意味」)。②学校教育高度化センター2014年度若手研究者育成プログラム「グローバル時代の学校教育」では、学校教育における地域文化の伝承活動も視野に入れて、日常生活や教育システム全体のなかで地域文化をとらえようと試みています。12月に学内での中間報告会を行い、3月にストックホルム大学で最終報告会を行う予定です(執筆時現在)。③学外活動として「三鷹市民との集い」(12月)でポスター発表を行いました(題目：「奄美大島のしま

うた文化」)。

このほか、共同研究として、学外の地域文化研究会で「常民大学の総合的研究」というテーマに取り組んでいます。昨年度に引き続き、新藤講師のもと、翻訳活動にも取り組みました。

〔西川昇吾〕

本年度行った研究は、以下の通りです。

【研究ノート】「社会教育学における労働の再検討」『生涯学習基盤経営研究』第39号、2015年3月発行予定。

【学術雑誌における解説・総説】「公民館研究の動向」(中川友理絵・松尾有美・中村由香・荻野亮吾と共著)『日本公民館学会年報』第11号、2014年12月、pp. 173-178。

【学会発表】「住民の社会参加と地域活動に関する調査研究：長野県飯田市千代地区・東野地区を対象とした『地域社会への参加に関するアンケート調査』の分析」(牧野篤・李正連・新藤浩伸・荻野亮吾・侯婷婷・中村由香・大山宏・中川友理絵・相良好美・松田弥花・松尾有美と共同)日本公民館学会第13回研究大会、2014年12月。

【その他】院生プロジェクト研究として、東京都世田谷区の「岡さんのいえ TOMO」に関わり、地域住民を対象とした企画を数回行った。

(社会教育学・生涯学習論研究室 修士課程)

〔松田弥花〕

前期では主に、長野県飯田市と石川県内灘町の公民館調査共同研究にメンバーとして参加させて頂き、量的な調査手法やワークショップの手法について学んだ。また、夏期休暇に千葉県柏市との共同企画である「キッズセミナー」にネイルアートの講師として参加させて頂き、子どもたちと共に作業を行った。さらに、院生主導によるプロジェクトとして「NPO 法人 街 ing 本郷」の活動に参加した。

後期は、修士論文に集中し、『スウェーデンのSocialpedagogikに関する研究ー民衆大学における「教育福祉」的实践を対象にー』という題目で執筆した。ソーシャルワークの一部として認識されがちなSocialpedagogikの独自の機能を明らかにするため、民衆大学における教育福祉的な機能に着目しSocialpedagogikが有する幅広い概念について考察した。

また、通年で生涯学習基本・特殊研究ゼミに参

加し、社会教育学に関する文献講読を通し知識を深めた。社会教育学領域における近年の研究動向や海外の動向について学ぶことができた。

〔浦綾乃〕

今年度は修士論文「地域文化財保護活動と地域社会一湯ノ山明神旧湯治場保護活動をめぐる諸関係の考察を通して」が研究の中心となった。所属する日本温泉文化研究会のサポートで、広島県広島市佐伯区湯来町にある湯の山温泉の文化財保護活動を観察するとともに、ワークショップ・インタビューを通して湯ノ山明神社氏子の方々を中心にお話を伺い、地域文化財という場の特性と保護活動のありかたについて考えた。

昨年度から続いて、石川県内灘町の公民館調査にも参加した。公民館主事の方々や地域の方々とともにワークショップを行い、その内容について報告書を執筆した。また、千葉県柏市での高柳キッズセミナーで中川友里絵さんとともに講座を持ち、「高柳キッズセミナー2014 実施報告」において、2人で「東大生の寺子屋」(pp.9-13.)にまとめた。このほか、お手伝いという形で、柏市くるるセミナーやモノラボ高山ワークショップに参加する機会をいただいた。

〔三山雄大〕

今年度は、修士論文「「郊外化」地域における住民組織の形成と活動に関する研究—千葉県柏市高柳地区おやじの会の成員の意識に着目して—」の執筆を中心に研究を進めた。参与観察を行う一方で、住民、小学校の教員、行政・社協の職員らにインタビューを重ねた。ここで得られたデータをもとに、高柳地区の地域活動、特に高柳小おやじの会の活動について、その形成過程やそこに関わる人々の意識を明らかにした。さらに、この作業を通じ、従来、均質的で住みづらいものとして捉えられてきた「郊外」が本来持っている可能性を明らかにした。高柳では、多様な「郊外住民」が、学校や子どもを核に、それぞれの能力やノウハウ、文化や経験を持ちよるなかで新たな文化が生まれており、そこに「郊外」の可能性が見出されたといえる。

また、修士論文の執筆以外では、内灘での共同調査に参加し公民館の可能性について考えたほか、「東大キッズセミナー」や「柏くるるセミナー」の運営にも関わり様々な年齢層の学びの場につい

て考えた。

〔家保咲希〕

今年度は主に修士論文「趣味としてのアイドルファンとつながりの形成—ジャニーズファンコミュニティの検討を通して—」の執筆に取り組んだ一年でした。修士論文では、アイドルファンコミュニティに着目し主にインタビュー調査を行いました。そして、彼女達の形成する関係性が、血縁や地縁が希薄化する現代社会における新たなつながりの可能性になりうるのではないかと結論付けました。

研究室の共同調査に関しては前年度に引き続き内灘地域における公民館調査に参加し、ワークショップ運営に関与するとともに報告書執筆に関わりました。また院生プロジェクトでは、街ing本郷に関わり、防災セミナー等に参加しました。

次年度からは研究室を離れますが、社会教育学研究室で学んだことを活かしていけるよう、日々努力していきます。

〔堀本暁洋〕

2014年4月に修士課程に進学し、本年度はゼミや講義で社会教育学研究の方法論や枠組み、基本的な視点について学びつつ、修士論文執筆の準備を進めた。個人研究のテーマとしては特に公共ホール施設と地域とのかかわりに関心を持っており、テーマ明確化のために先行研究にあたったほか、ホール施設の運営に携わっていらっしゃる方にお話を伺うなど、関心を深めた。そのほか、本年度は以下のような活動を行った。①社会教育学演習(学部)の一環のフィールドワークに参加し、長野県飯田市の文化活動について調査、報告書執筆を行った。②NPO法人街ing本郷の活動に参加し、また同NPO内「ひとつ屋根の下プロジェクト」のメンバーに加わった。③新藤講師のもと、生涯学習・文化に関する海外文献の翻訳に取り組んだ。④地域文化研究会における、常民大学の活動に関する共同研究に参加し、鎌倉柳田学舎(神奈川県鎌倉市)への調査を行っている。

〔藤倉皓一郎〕

今年度の4月より修士課程に入学した。ゼミでは社会教育学研究を行う基本的な視点や枠組み、方法論を学び、他コースの授業で他分野と比較して社会教育学の特徴やそこへの示唆を学びながら、

修士論文の準備を行なっている。いま行っていることは主に4つである。思考基盤の拡大、知識の拡大、研究視角・研究方法の検討、フィールドでの実践である。特にフィールドと研究をいかにしてつなげていくかということが課題である。この研究室の最大の特徴としては、「現場」の実践に直接関与しながら研究を行うことであると考えている。それは、現場との関係を築き、いかに研究にしていけるか、いかに研究者としてのスタンスや研究視角を築くかである。本年度は、実践としては、学部ゼミでの飯田市へのフィールドワーク、院生プロジェクトでの「街 ing 本郷」の活動、特に「ひとつ屋根の下プロジェクト」の活動を行った。

[付雨菲]

今年度は授業の一環として、夏休み期間に飯田市に行われた実習を参加し、その後も追加調査として、飯田住民のボランティア活動の現場に行き、初めて自分一人で担当したインタビュー調査を行った。

研究室の共同研究として、今年はNPO法人「街 ing 本郷」の活動の現場に実際に入り、そこに行われている住民の取り組みおよび学生の動きなどを近くで見ることができた。また、「岡さんのいえ」という異なる形の地域のスペースにも、イベントに参加させていただき、地域コミュニティ・多世代交流について、興味深い示唆を与えてくれた。そして、初めて内灘町に訪れ、前年度WSの報告会に参加した。

個人研究では、もともと研究対象としての「中国の青少年」を今日の社会背景のなかにもその「学び」についての意識・実践をより適切に分析するために、社会構造の変容をもっと広い視野で収め、身近な人と事例から少し疑問を交えながら観察を心がけている。

[松尾有美]

本年度の活動は以下のようである。

<執筆>

1. 昨年度提出した卒業論文での事例調査・報告部分を加筆修正し、『岐阜大学総合情報メディアセンター生涯学習システム開発研究』に掲載された。「韓国における「ドリームスタート」事業の現状と課題」(2014, 益川浩一, 森田政裕と共同執筆), 「韓国ソウルにおける「マウル共同体総合支援センター」の現状と課題」(2014, 森田政裕, 益川浩

一と共同執筆)

2. 『東アジア社会教育研究 19号』において、「韓国の平生学習・この1年」(金宝藍, 郭珍榮, 呉世蓮と共同執筆)

<翻訳>

1. 梁炳贊(韓国公州大学校)「韓国におけるマウルづくりと平生教育の新しい協働の可能性 - 「地域教育共同体」の拡張と進化を中心に -」第6回日韓学術交流研究大会当日資料

<共同研究>

1. 9月に学部ゼミの一環で長野県飯田市を訪問し、公民館活動や住民主体のまちの在り方の理解を深めた。年度末に報告書を刊行予定である。

2. 長野県飯田市を対象にしたアンケート調査の分析を行ない、日本公民館学会での発表に至った。

「住民の社会参加と地域活動に関する調査研究-長野県飯田市千代地区・東野地区を対象とした「地域社会への参加に関するアンケート調査」の分析-」日本公民館学会第13回研究大会, 2014年12月(牧野篤, 李正連, 新藤浩伸, 荻野亮吾, 侯婷婷, 中村由香, 大山宏, 中川友理絵, 相良好美, 西川昇吾, 松田弥花, 共同発表)

3. 石川県内灘町へ赴き、地域住民と共にこれからのまちの未来や公民館の在り方について考えるワークショップに参加した。

<その他>

1. 東京都世田谷区の岡さんのいえ TOMO の活動に関わりつつ、イベントの企画や運営を行なった。地域住民の方々や、子どもたち、他大学生との交流を深めた。

2. 岐阜県高山市において、MONO-LAB-JAPAN が小学生向けに行なっているワークショップにスタッフとして参加した。

学位論文

博士論文

2014年3月（課程博士）

河村俊太郎「知識の基盤としての東京帝国大学
図書館システム—蔵書の分析を通して—」

2014年6月（課程博士）

荻野亮吾「社会教育とコミュニティの構築に関する理論的・実証的研究 —社会教育行政の再編と社会関係資本の構築過程に着目して—」

修士論文

2015年3月

志村瑠璃「利用記録を用いた大学生の文献入手環境の研究」

松田めぐみ「司書教諭と学校司書による教員への支援の実態—実践報告にあられる支援内容の分析—」

家保咲希「趣味としてのアイドルファンとつながりの形成—ジャニーズファンコミュニティの検討を通して—」

浦綾乃「地域文化財保護活動と地域社会—湯ノ山明神旧湯治場保護活動をめぐる諸関係の考察を通して—」

松田弥花「スウェーデンの Socialpedagogik に関する研究—民衆大学における「教育福祉」的実践を対象に—」

三山雄大「「郊外化」地域における住民組織の形成と活動に関する研究—千葉県柏市高柳地区おやじの会の成員の意識に着目して—」

図書館情報学研究室教員・院生一覧

教授 根本 彰
影浦 峡

客員教授 吉田 右子

客員 Anthony Hartley

特任研究員 浅石 卓真

博士課程 松田 ユリ子
崔 英 姫
蘇 懿 禎
村山 遼
高橋 恵美子
宮田 玲

修士課程 志村 瑠璃
松田 めぐみ
高浪 雅洋
矢田 竣太郎
山田 翔平

中山 友理絵
川口 香苗
金 宝藍
相良 好美
杉浦 ちなみ
西川 昇吾

修士課程 家保 咲希
浦 綾乃
松 田 弥花
三山 雄大
堀本 暁洋
松尾 有美
藤倉 皓一郎
付 雨菲

社会教育学・生涯学習論研究室教員・院生一覧

教授 牧野 篤

准教授 李 正連

講師 新藤 浩伸

特任助教 松山 鮎子
古壕 典洋

博士課程 高雄 綾子
大木 真徳
本庄 陽子
坂井 菜央美
王 美璇
豊田 香
中村 由香
侯 婷婷
丁 健
大山 宏
園部 友里恵